

過去から学ぶ【第5回】海旅業界関西シニア会に聞く！ 海外旅行自由化40周年企画-40年前の海外旅行業界とは 黎明期のパッケージツアー ~リテールの経験~

元太平洋観光の高山嘉明氏

1964年(昭和39年)は旅行業界に長年携わる者にとって、海外旅行元年と位置づける大変革の年でした。私自身はその年、機械メーカーから9月1日付けで転職。それから40年余が経過。乏しい記憶を辿りつつ、初期のパッケージツアー販売にまつわる事を回想します。

4月に外貨持ちだし枠が年間一人500米ドルの制限付きながら、観光渡航が自由化。5月に有力エージェンツ5社が共同で企画するハワイ観光旅行を催行。7月に日本初のパッケージツアー「プッシュボタン」がスイス航空から発表。

国内も華々しく、10月1日に新幹線が開業し、10月10日に東京オリンピックが開幕。この年の海外渡航者数は12万8000人で、10年後の1974年には渡航者数が234万人と、18倍の成長率を遂げるマーケットの幕開けであった。団体旅行とパッケージツアーの大きな発展が原動力であった(年表参照)。

パッケージツアー取扱いの歴史は、1964年から67年はキャリア主導型、68年からジェイティービーをはじめ大手エージェンツの相次ぐ参入の時代と見ることが出来る。69年に

ホールセール専門の旅行開発と世界旅行の2社が設立。72年に、現在でも販売されるツアーブランドが出揃い、「純パック」として各社が工夫を凝らした豪華パンフレットを競った。ただし、こうしたカタログ本を販売ツールの主力とする営業展開は各社とも、少しずつ制作費の負担が増大しはじめた時期でもあった。



ジャルパック店舗になる前のウィンドウディスプレイ

ホールセール専門の旅行開発と世界旅行の2社が設立。72年に、現在でも販売されるツアーブランドが出揃い、「純パック」として各社が工夫を凝らした豪華パンフレットを競った。ただし、こうしたカタログ本を販売ツールの主力とする営業展開は各社とも、少しずつ制作費の負担が増大しはじめた時期でもあった。

リテールから見るパッケージツアーの黎明期

パンフレットは当初、ガムやハワイなどデスティネーションが限定的であったことから、セールスマンが紙袋いっぱい詰めて、汗だくで運ぶことが主流。次第に目的地が増え、販売店のパンフレット置き場に自社商品を常時、多量に置くことを競う様に変化。そして、段ボール詰めめで店舗の広さに関らず、宅急便の配布へと切り替わった。時には、在庫処理のため、有効期限切れ寸前のパンフレットを入れる段ボールが配達されることもあった。邪魔を理由に即、廃棄処分すると、運悪く該当セールスマンに見つかり、苦情を言われたこともあった。

初期のパッケージツアーの企画運営はジャルパック、パンナム・ホリデイとも幹事旅行社が行った。パンナム・ホリデイを例にすると、



幹事会社が5グループ(1グループ5社程度で構成)がそれぞれ趣向を凝らした企画を設定。中には、全客が1名でもエスコ

トを付け、20日間のカリブ海ツアーを催行するという不採算ツアーも存在した。

ただし、こうした複数社のグループ構成は企画、販売に各社の思惑が絡む。そして、徐々にホールセール会社が必要となった。こうして、日本航空の1セクションが独立した旅行開発が誕生。このキャリア主導に対抗し、中堅6社がニュー・オリエント・エクスプレスの1部門であったジェットツアーから世界旅行を設立する(NOE以外の設立当初の株主は阪急、三井、南海、菱和ダイヤモンド、太平洋観光)。

一方、1968年11月に超大手のJTBと日通は「LOOK」を共通ブランドとして共同でルックセンターを発足。この動きは、業界全体に衝撃を与えた。販売店の立場から当時の記憶を蘇らせると、「自分の顧客を航空会社、超大手旅行社に横取りをされる」との不安が常につきまとった。だが、時代の流れであるツアー参加者の飛躍的な増加が後押し。また、申込み手続きが簡単に販売しやすいこと、値引きせずに販売価格の10%の収益が確保出来る商品は魅力的であった。パンフレット・スタンドに潤沢な商品が並び、ディスプレイの一部となることも、送客に対するアレルギーの解消に一役をかった。

販売の最前線で起きたこと

各社の販売促進も活発化してジェットツアーやルックのように直販店を持たないジャルパックは販売協力店を募った。私が勤めた店舗にもジャルパック・コーナーを設置したことも、パッケージの歴史を振り返ると大きな業界ニュースの一つでしょう。

入り口上部に、横長の大型看板「JALPAK」を設置し、店内は白いカウンター、オレンジの来客用椅子で統一した店内の「JALPAKコーナー」は来客の増加に寄与した。標準モデル店舗型の第1号は銀座5丁目の太平洋観光銀座営業所に設置。ただ

し、費用対効果の面で大きな成果を得ることが出来ず、長続きしなかったように思います。

余談ですが看板の効果は絶大。来客増の裏では、日本航空の支店と間違われた外国人旅客が「ホテルを用意しろ、過重荷物の料金を割引しろ」などとクレームに対応することも数知れず。

この時期、ルックは銀座の一等地地価日本一の鳩居堂向かい側にある銀座コアビル9階にルック銀座をオープン。旅行用品販売と旅行カウンターを併設した店舗を構えた。

こうして、銀座界隈でカウンターを持つ数寄屋橋近くの阪急、JTB有楽町支店、三原橋の南海、ルック銀座、尾張町交差点の太平洋観光とがパッケージツアーの集客を目指し、共同戦線をとる話し合いが持たれたこともあった。具体的な成果は無かったものの、パッケージ販売の競争と共通商品販売に一体感を強く感じる時期であった。

さらに、今では想像もつかない商品として、ヨーロッパの航空会社を利用したハワイツアーがあった。現在のプリティッシュ・エアウェイズの前身である国営の「BOACで行くローズツアーハワイ旅行」だ。BOACは世界一周を運航し、羽田、ホノルル、サンフランシスコ、ニューヨーク便の一部路線を利用したツアーで、銀座の店舗において大きな看板を打ち出し、人気の高い商品の一つであった。

リテラーのエピソードを最後に一つ、紹介しましょう。東京駅八重洲口東側の国際会館ビル1階に数社のカウンターが並び何処も似たような店構え、同じ間口、同じパンフレットが並ぶ一角が有りました。あるご夫婦がジャルパックロイヤルのヨーロッパ、あるいは世界一周の単価500万円はする旅行の



ジャルパック店舗のウィンドウディスプレイ



BOAC ローズツアーハワイのポスターと1967年3月8日の為替レート表

申込みに来店。立ち並ぶエージェンツの一つのドアを開け、申込みを済ませました(近ツ、東急、藤田)。それを知った扉一つ違いの所長の嘆きは大変なもの。誓約した所長は宝くじに当たった心境だったと伝えられています。



高山 嘉明(たかやま・よしあき)氏

1937年4月23日生まれ(東京都世田谷区)
1966年3月 太平洋観光(現パシフィックツアーシステム)入社
1980年1月 太平洋観光大阪営業所営業権譲渡、三喜トラベルサービスへ
1984年8月 西武百貨店旅行事業部入社、国際会議プロジェクト部長
1992年4月 ヴィーブルから東京観光大阪営業所次長で出向のち移籍
現在 日本ビジネストラベルと業務提携 NPO法人日本医師スポーツ協会理事
海旅関西シニア会運営委員会 ウォーキング、国内旅行担当幹事

年	業界の動き	航空会社の動き	パッケージツアーの動き	渡航者数
1964年(昭和39年)	4月 外貨枠年間1人500米ドルで渡航自由化 10月 新幹線開業 東京オリンピック	6月 ルフトハンザドイツ航空東京就航 12月 JALトラベルローン開設	5月 主要旅行業5社共同ハワイツアー出発 7月 スイス航空、日本初のパッケージツアー「プッシュボタン」	127,749人
1965年(昭和40年)		5月 日本航空北回りのロンドン、パリ線開設	1月 ジャルパック、発売 2月 AMEXハワイツアー発売 4月 ジャルパック、第一陣ヨーロッパ出発 パンナムホリデー発売	15,0882人 ジャルパック集客数 2,192人
1966年(昭和41年)	外貨枠1回500米ドルに引き上げ 5月 太平洋団体包括旅行(GIT)運賃導入	11月 日本航空がニューヨーク線開設	8月 JALKIT発売 AF セシボンツアー発売 LHオイローバツアー発売 SKバイキングツアー発売 BAローズツアー発売	212,000人 ジャルパック集客数 2,751人
1967年(昭和42年)		3月 日本航空が世界一周線開設 4月 日本航空がモスクワ線開設	3月 AMEX ホールセール開始 ジャルパック、世界一周とヨーロッパを発売	267,538人 ジャルパック集客数 4,176人
1968年(昭和43年)	太平洋15人以上の団体包括旅行(GIT)運賃導入 メキシコオリンピック開催	8月 日本航空がバンクーバー、サンフランシスコ線開設	1月 JTBミニ・ハニー発売 2月 TTK、ガムツアー発売 NTA、ブライダルツアー発売 7月 JTB、名称をルックに統一 9月 NOE、ジェットツアー発売	343,542人 ジャルパック集客数 5,822人
1969年(昭和44年)	外貨枠700米ドルへ増額 11月 欧州線バルク運賃導入	5月 英国航空、北回リロンドン線開設 9月 パン・アメリカン航空、大圏コースニューヨーク線開設/日本航空、シドニー線開設	1月 JTB/NEC LOOKを共通で販売 4月 旅行開発(株)設立 7月 世界旅行(株)設立 郵船航空ダイヤモンドツアー発売	492,880人 ジャルパック集客数 10,059人
1970年(昭和45年)	外貨枠1000米ドルへ増額 1月 太平洋線バルク運賃導入 3月 大阪万博開幕 12月 パスポート数次5年発給	3月 パン・アメリカン航空、B747型機、太平洋線に就航 7月 日本航空、B747就航 10月 日本航空、ガム線開設	1月 ホールセラー各社、ハワイ6日間を最低販売価格12万6500円で発売(前年まで30万円前後)	663,467人 ジャルパック集客数 29,999人
1971年(昭和46年)	3月 BSP決済システム世界初導入 4月 アジア線バルク運賃導入 6月 外貨枠3000米ドルに増額	日本航空、テレビCM開始	6月 ジャルパック、ハワイエスコート廃止 ジャルパック、ヨーロッパフリータイム発売	961,135人 ジャルパック集客数 54,884人
1972年(昭和47年)	7月 DC-10型機、L1011デモフライト 8月 ミュンヘン・オリンピック開催 11月 外貨枠撤廃		1月 阪急グリーンングツアーに名称統一 2月 近ツ、ホリデイ発売 日旅、マッハ発売 11月 京王、キングツアー発売 シャープ、レッツゴーツアー発売	1,392,045人 ジャルパック集客数 75,253人
1973年(昭和48年)	2月 円変動相場制へ移行、1米ドル=308円 12月 石油危機で緊急事態宣言、外貨枠3000米ドル以内に規制		3月 西鉄、ハッピーツアー発売 10月 VVR、ヴァリューツア発売 12月 ジャルパックロイヤル発売 太平洋、パスポートQ発売	2,288,966人 ジャルパック集客数 97,929人
1974年(昭和49年)	1月 石油危機による航空運賃6%値上げ 4月 日中航空協定締結と台湾行き航空便運航停止/外貨枠3000米ドル、日本円3万円内の持ち出し規制 7月 損保12社、旅行業費用保険発売 9月 石油緊急事態宣言解除	6月 エアバスA300B型機デモフライト 9月 日中便運航開始	7月 航空運賃の値上げに伴い各社パッケージ価格を一斉値上げ	2,335,530人 ジャルパック集客数 90,693人

参考資料: JALPAK グラフティ-25/吉村光雄著(元東京観光社長)「海外旅行発展の足跡」/日本ツアーオペレーター協会編「協会沿革史*海外旅行の道程を切り開いた四半世紀」/中条潮著「航空新時代」ちくま新書

海旅業界関西シニア会とは?

関西地区で海外旅行関連業界(旅行会社、航空会社、ホテルなど)に20年以上勤務した50歳以上の現役、OBで構成する任意の親睦団体で1990年の発足。現在約180名の会員が登録されており、業界の現役とOBの比率は4対6となっている。共通の趣味やテーマを通じて活発な活動を続けている。URL: <http://www.class-e-jp.com/senior/kai/>